
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時40分）

◇ 藤 井 要 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位2番、藤井要君。

（1番 藤井 君 登壇）

○1番（藤井 要君） それでは、通告に従いまして、壇上より一般質問を行います。

先ほど当局より観光施設関連の入客状況等の報告がありましたが、4月は前年度より改善が見られるものの依然として厳しい状況が続いています。伊豆まつざき荘の宿泊状況を見ても、24年度に持ち直しの兆しが見えたが、25年度は更に赤字が拡大し、赤字額3600万円であります。

町長がおっしゃる26年度から3カ年での黒字目標がますます厳しくなってきたと感じています。昨今の富士山や富岡製糸場の世界遺産登録、浜名湖博覧会への流客等の情勢もありますが、わが町には、昔から引き継がれた歴史と文化が残されています。

観光客の方々が松崎に来ると癒やされるとよく言いますが、私は、これが松崎町の「わび・さび」ではないかと感じるものであります。

昭和53年5月の広報まつざきを見ますと、「花とロマンの里」町のシンボルタイトルに決定と出ています。時の依田町長は、かけがえのないものを大切にする。住民がわが町を誇りに思い、良くしていこうと考えに関連していくものであると言っています。

時の流れのなかでもブレずにふるさつを見つめ直す。そこに松崎の生きていく道が開けるのではないのでしょうか。

そこで、町長の美しい町づくりの構想、「花とロマンの里」、「品格のある邑」、「日本で最も美しい村」に対するそれぞれの理念と違いをお聞かせください。

次に、よく町民から「花とロマンの里」、「ふじのくに美しく品格のある邑」、「日本で最も美しい村」は内容が同じようでわかりづらいとの問い合わせがよくあるので、町民にわかりやすく説明することからも体系的、組織図的なものがあればお示し願います。

次に、町の歴史的、文化的建造物の管理状況ですが、那賀川には、宮の前橋から海に向け、4本の橋が架かっています。宮の前橋はなまこ壁をイメージした現在を、ときわ橋は漆

喰で装飾し過去を、浜丁橋は幾何学模様で未来をイメージして造ったと言われています。

先ほどの「わび・さび」の世界ではありませんが、これらの橋を見ると、過去をイメージしたときわ橋は「わび」ならぬカビだらけ、未来の浜丁橋はところどころ欠け落ち、大サビだらけ、何か将来の松崎町を暗示しているような気がして、危機感を抱いてなりません。

町長は、先の4年間でさび止めや補修等の対策を取ったのか。これからも「わび・さび」ならぬカビ、サビの町として観光客をおもてなしするつもりなのか。早急な修理が必要と思われるのですが、お答えください。

次に、教育問題についてお伺いたします。

松崎幼稚園を岩科への町長の諮問に対し、26年3月の定例議会後、委員会では幼稚園、共同調理場の候補地視察を行ったとのことであります。また、諮問に対する答申が5月27日に出されたわけですが、年度替わりによる委員の大幅な入れ替えにより、十分な議論がされたのか、はなはだ疑問であります。提出された答申内容と町長の答申に対するお考えをお聞かせください。

次に、聖和保育園の建設に対する現状と今後の施設整備についてお聞きします。私は、将来の少子化を見据えて、幼稚園と保育園の一体化を望むものですが、町長はあくまでも2園にこだわる幼保分離論者であります。先の3月定例会で町長は、某議員の質問に対し、「聖和保育園側は町の要請があれば、認定こども園として運営も考えているようだが、今後も適切に運営できるという保障はないので、同意するつもりはない。」と答えています。現状のままですとすれば、地震・津波に安全であると考えの中川、岩科に比べ、耐震性に欠ける聖和保育園に松崎の子どもたち80数名を委託している聖和保育園を先に建設するのが道理ではないでしょうか。

以前より耐震に欠ける建築物で、改善の指摘を受けている聖和保育園の保護者に対し、どのように説明するのですか。

また、静岡県26年度当初予算で、保育所施設整備に対する助成、聖和保育園7500万円が見込まれておりますが、どのように扱うおつもりなのか、お聞かせください。

次に、少子化、人口減少に向けた当町の取り組み、近隣市町との連携をどのように図っていくのか、お聞きします。

私は、以前より少子化、人口減少問題に対する質問をしてきましたが、最近報道された40年の人口推計では、松崎、西伊豆、南伊豆が地域崩壊や自治体運営が行き詰り、消滅の可能性が高い自治体に分類されたことは衝撃的でありました。

いま国では、子ども子育て支援に取り組んでいるところでありますが、自分たちの地域は自らも発展させる自助努力が必要と考えるものであります。

地方行政の合理化、学童保育の充実、将来へ特化した人、物資への集中、また火葬場、将来更新時期が来るごみ焼却処分場や学生の減少による学校の維持、教育組織の問題等、町長は、近隣市町との統合、連携をどのくらいの本気度をもって進めるつもりなのか、お考えをお聞かせ願います。

以上、壇上からの質問を終わります。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 藤井要議員の一般質問にお答えします。

1. 美しい街づくりについて。

①『「花とロマンのふるさと」・「ふじのくに美しく品格のある邑」・「日本で最も美しい村」各々の理念はなにか』についてでございます。

昭和53年度から推進している「花とロマンのふる里づくり」は、豊かな自然や歴史など地域の特性を活かした、個性的で潤いのあるまちづくり、住んでいる人が誇りに思えるまちづくりを目的としております。

また、平成24年度に静岡県内35市町で設立した「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」連合は、素晴らしい地域資源を有する農山漁村が、その魅力・美しさを再評価することで地域への愛着心や誇りを醸成し、また、その地域資源の保全、活用を通じた活性化により物心ともに豊かになることで、自らが地域の将来像を考え、行動する自律したコミュニティの形成により「ふじのくに美しく品格のある邑」として憧れを抱き惹きつけられる「住んでよし、訪れてよし」の地域となることを目指しています。

「日本で最も美しい村」連合の目的は、素晴らしい地域資源を持ちながら過疎にある美しい町や村が、「日本で最も美しい村」を宣言することで、自らの地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行うこと、住民によるまちづくり活動を展開することで地域の活性化をはかり、地域の自立を推進すること、生活の営みにより作られてきた景観や環境を守り、これらを活用することで観光的付加価値を高め、地域の資源の保護と地域経済の発展に寄与することとしています。

それぞれが目指しているものに違いはなく、地域に誇りと愛着を持ち、地域の資源を保全、活用することで、地域の活性化を図っていこうとするものでございます。

これまでの「花とロマンのふる里づくり」を住民の皆さまとともに、より積極的に展開し

ようという町の明確な意思と決意を町内外に示したのが、「日本で最も美しい村」連合への加盟であり、静岡県のご支援をいただき進めている「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」連合が、いわば静岡県版の美しい村づくりとなっています。

②「町ではこれらを利活用していく上での、管理体系図や組織図的なものはあるのかについて」でございます。

「日本で最も美しい村」づくりを推進する組織に関しましては、先ほどの高柳議員の一般質問でも回答させていただきましたが、副町長を庁内推進責任者とする「日本で最も美しい村庁内推進会議」、町内の各種団体を網羅した「日本で最も美しい村推進委員会」、町内の有志で組織する「まちづくりやろうじゃ協議会」の3つの組織が連携し、全町一丸となって「日本で最も美しい村」づくりを推進していくこととしております。

③「町の歴史的、文化的な建造物の管理状況は」についてでございます。

現在、町が管理している歴史的、文化的な建造物は、明治6年に建築された大沢学舎をはじめ明治13年に建築され国の重要文化財に指定されている岩科学校、明治20年建築の明治商家中瀬邸、明治43年建築の伊豆文邸などがあります。

大沢学舎や岩科学校、明治商家中瀬邸につきましては、一般財団法人松崎町振興公社が指定管理者として管理を行い、伊豆文邸につきましては、地区の皆さんからなる伊豆文サポートが管理にあたっており、またその他文化観光的施設につきましては、町が管理にあたっております。施設の修繕や工事等につきましては、状況や予算をみながら町で対応をすることといたしております。

また、町では、左官技術の継承や街並み整備、誘客を目的として平成6年度から伊豆の長八美術館周辺で、民家のブロック塀になまこ壁を施工する「なまこ壁技術伝承事業」を行い、これまで665メートルを整備しており、整備後の修繕などについても状況を見て対応しております。

個人所有のなまこ壁につきましては、これまでの一般質問でも回答をさせていただきましたが、今後、重要な建造物につきましては、町文化財指定の検討や維持・修繕に係る補助制度の創設を考えてまいりたいと思います。

2. 教育問題について。

①「松崎幼稚園の建設に対する答申は出たのか。答申内容と答申に対する町長の考えは」についてでございます。

現在の幼稚園は、議員もご承知のとおり平成24年度に津波浸水から免れるため、将来1園

統合するまで暫定的に2園体制となっており、町としましては、できるだけ早期に統合するため用地の検討をし、本年2月28日教育施設等整備検討委員会に、旧岩科小学校敷地を候補地として諮問をしたことは、本年第1回定例会において議員の一般質問に回答しております。

その後、検討委員会では、旧岩科小学校と旧中川小学校敷地について、安全面や教育環境等の観点から比較検討し、建設場所として旧岩科小学校敷地は適地であるとの答申を5月27日にいただきましたことは、先ほどの行政報告で報告したとおりでございます。

今後は、早期の統合を目指し、敢為邁往（かんいまいおう）進めてまいりますので、議会の皆様のご協力をいただきますようお願いいたします。

②「聖和保育園の建設に対する現状と今後の施設整備計画は」についてでございます。

聖和保育園については園舎の老朽化が進んでいることや、平地に移転したいという要望があることから、用地や資金等について検討を重ねてきたところです。

今回、岩科地区に幼稚園を建設する方針が固まりましたが、地区の賑わいや、用地のことを考慮すると中川地区に保育園を建設することが適切かと思われ、具体的には旧中川小学校敷地を考えています。

しかし、そこには既存の小学校校舎や、幼稚園がありますので園舎の位置などについて検討が必要ですし、保育園側の資金不足をどのように補うか調整が必要です。

また、保育園側が建設する場合は、安心こども基金を利用することになりますが、平成27年度完成という制限がありますので、制度の期間延長や、新制度の創設を要望しながら準備を進めてまいります。

3. 今後の課題について。

①「少子高齢化と人口減少に向けた、近隣市町との取り組みをどのように考えているのか」についてでございます。

我が国の総人口は、平成24年1月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口」によれば、2026年には1億2000万人を下回り、2043年には1億人を下回るとされ、急激な減少が見込まれています。

また、当町に目を向ければ、先月、日本創成会議が発表した「ストップ少子化・地方元気戦略」の中で、これは人口移動が収束しない場合という条件が付きますが、2040年には4152人となり、消滅の可能性が高い自治体の一つにあげられ衝撃を受けたところでございます。

こうした状況は、財政の自立性を弱めることにも繋がるため、町が単独であらゆる公共施設等を揃えるといった「フルセットの行政」から脱却し、県や他市町と新たな広域連携を推進することで、基礎自治体としての役割を、持続可能な形で果たしていけるようにすることが必要と考えています。

すでに、広域消防組合や衛生プラント組合など、連携している事業もありますので、これからも近隣市町との連携を密にして、事業協力にも柔軟に対応していく所存でございます。

以上でございます。

○1番（藤井 要君） 一問一答方式でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○1番（藤井 要君） それでは、再質問を行います。

1の花とロマンの里の関係、町民の方がわかりづらいというようなことで、私もよく聞かれるんですけども、先ほど時の町長の依田さんの・・・、ここにありますが、花とロマンの私のふるさとということで、対談の中からちょっと拾わせてもらいましたけれども、意識の改革が大きなテーマでやったわけですが、花とロマンのふる里づくりというのは、ある意味ではコミュニティづくりとかいろいろ書いてありますが、かけがえのないものを大切にということであると、結論的には、そういうふうに言っているんじゃないかと思います。

この「美しい村」連合って何かというのを見ましても、ここにあるわけですが、失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観、文化を守り、「最も美しい村」としての自立を目指す、ということをおっしゃいますね。

そして、ふじのくにのやつだともう理念ということで書いてありましたけれども、これは6次産業とか、将来にわたり自立的に発展させる農山漁村を創造し、農山漁村を次の世代に継承していくというようなことを書いてありまして、ですから、同じような、中身的にはそうかなと。

そうしますと、時の依田町長というのは、素晴らしい人間だなと、近年、松崎町なんていうと、怒られちゃいますけれども、素晴らしい人物であったと今さらながらに敬服するわけですが、うちの町長もそういうのを、皆さんに「大したもんだ」と言われるような町長になってもらいたいということで、あと4年間ですか、一生懸命頑張ってもらいたいと思います。

なかなか理念的というか、もう中に突っ込んでいくことはなかなか言えませんので、私も先ほど言いましたように、皆さんがわかりやすく、肩の力を抜いて質疑ができるような、そ

ういう関係でやりたいと思います。

そこで、先ほど、那賀川の橋、3本になりますけれども、宮の前橋は現在をイメージしていますよと、ときわ橋は過去をイメージして漆喰、そして、最後の浜丁橋は幾何学模様の未来をイメージしているということで、先ほど傍聴者さんの方にも写真をお渡ししました。この写真を見て、町長、どうですか。

先ほど「4年間で修理をしていますか」と言いましたけれども、こういう状態で「わび・さび」じゃなくて、サビ、大サビじゃないですかというところで、観光客をおもてなしする。そういう点については、どうお考えですか。

○町長（齋藤文彦君） 依田町長のことをさっき言われましたけれども、私は、依田さんの書いたものを教科書みたいに横に置きますけれども、観光は教養であるという言葉がずっと残っていて、それが私のまちづくりの基本にあることだと思っています。

ただ、いろいろありますけれども、橋等がありますけれども、それを全部きれいに毎日びかぴかにすることはできないわけで、いろいろ見つけて、やれるところだけやっていくというようなことで、「美しい村」に入ったことですので、そういうことを積極的にやっていきたいと思っています。

○1番（藤井 要君） 先ほど私は「4年間町長は何をやってきましたか」ということも聞きました。また、あえて言えば、あの時計台を見てください。時計台の足になりますかね。写真も入れてあります。後ろにありますけれども、私の指でブスッとやれば、あの木の中に手が入るんですよ。ですから、強い圧力か何かで押せば倒れるような状況なんですよ。4年間そういうのを何もやってきていないと私は思うんですよ。そして、これからもまた、やると言っているけれども、放っばらかしておけば、だめになりますよ。

あの橋を見てください。写真も渡してありますけれども、繋ぎ目、繋ぎと繋ぎがもう真ん中が折れちゃってないじゃないですか。それで美しい村連合ですよ。

私は、「わび・さび」と言いましたけれども、松崎に来たときに、お客さんが「なんか何も無いけど落ち着くね」と、そういうことを言うわけですよ。それを、サビだらけ、カビだらけ、穴だらけ、そんな町にしたいくないわけですよ。来たお客さんに心を癒してもらって、そういうことによって、松崎に、先ほど言いましたけれども、花博とか、文化財とか、そういうのはありませんけれども、「わび・さび」の心、浸み出てくる美しさみたいなもの、それが松崎の生き残るものじゃないかと思うんですよ。時計台も合せて、もう一度修理とか、それはいつぺんにできないことはわかりますよ。点検しながら、少しずつやっていくんだとい

うような、そういう気はあるのか。ちょっともう一度お聞きします。

○町長（齋藤文彦君） 時計台は、私が役場に行く前に通って見ているわけですがけれども、行ってもそういう追求をされてやるといろいろ困ることもあるわけですがけれども、議員のおっしゃることはそのとおりだと思いますので、できるだけことはやっていきたいなと思っています。

○1番（藤井 要君） 4年間毎日、毎日通っていたんですよ。町長は、カヌーで海から海岸を見ますけれども、歩いて町の中をもう少し見てくださいよ。そうすれば、何か出てくるものがあると思うんですよ。

それくらいにしまして、あと、今度副町長が松崎に来られたわけですがけれども、副町長は県から来て、町とのパイプ役ということになっております。そして、私が、那賀川というか、伏倉橋から宮の前橋あたりですか、歩道を見ても・・・、県道になるわけですがけれども、花が咲いているなかで、草がビヨンビヨン、ビヨンビヨン出ていますよね。そして、川を見ると、南郷橋というか、船田橋からもうそうかもしれませんが、アシですか、あれがボンボン出ていて、私が小さい頃はというか、どのくらいまでかはわかりませんが、伏倉橋のところだって、昔は消防の放水訓練なんかをあそこでやったんですよ。

そういう点を踏まえて、せっかく副町長が来たんですから、お花畑のシーズンとか、桜のシーズンに合わせて、あそこを刈るとか、そういうようなコンタクトはできないですか。それをちょっとお答え願いたい。

○副町長（佐藤 光君） 4月に副町長に就任いたしました佐藤光でございます。本当にこの伝統ある松崎町の町政の一端を担うというお役目をいただきまして、本当に誇りに思っております。ぜひともよろしく願いいたします。

ただ今の藤井議員からのお話でございます。私も、実は、4月に来まして、ちょうど行楽シーズンでございます。4月が桜の時期でございました。そういったこともございまして、県道の関係、特に県道沿いにお花が咲いておりますので、そういった意味での管理の問題が、非常に正直気になったところもございました。

藤井議員のおっしゃるとおりでございまして、これは、さっそく私も県の方をお願いをしたところでございます。今後は、どういうことをやっていこうとお話をしているかと申しますと、もう少し具体的に計画的に松崎町の要望を上げて欲しいというふうな要望をいただいております。どういうことかと申しますと、県の管理の道路、河川は非常にあまたございますので、そういったものを適時に管理するというのが、なかなか年間のスケジュールのなか

で難しいということもあるようですので、我われのこういった観光地である特性を活かしまして、どうせやるなら、こういう時期にやって欲しいということで、具体的な要望書を上げていきたいなと思っております。

そういう中で、同じ管理をするにしても、観光客の皆様が大勢訪れる時期の前にはできるだけそういう対応ができるような形でご協力をお願いしたいなと思っております。

そうは言いましても、なかなか県の方も財政的な問題もあろうかと思っておりますので、できること、できないことをはっきりお伺いしながら、極力そういった町の要望を実現できるようにお願いをしてみたいと思います。よろしくお願いたします。

○1番（藤井 要君） 頼もしい言葉というか、ぜひとも期待しておりますので、お願いしたいと思います。

私のところにも岩科川はアシがいっぱいあるけれども、年4回くらいボランティアでやっているということなんですよ。

そして、私のところにも手紙とか、お電話をくれる人もいますけれども、これは「町の職員がリーダーとなって、草刈りボランティアを募集してみたらどうでしょうか」とか、そして、区長さんとか、そういう方も県は県でやってもらったと、労力があまりかからないような状態で民間が、花いっぱい運動とか、そういうような時にでもできれば、一番いいのかなと思いますので、ぜひともそこはよろしくお願したいなと思います。

○副町長（佐藤 光君） 今のお話はもっともだと思います。そういった中で、県にも道路の場合は、アダプトロードシステムという形で、道路の管理を管理者である県が行うだけではなくて、地元の皆様、地区の住民の皆様と協働して管理をしていただく制度がございます。河川につきましては、リバーフレンドシップという、これも地域住民の方との協働によりまして、管理するシステムがございますので、そういった制度も有効に活用しながら、ぜひともその保全管理に努めてまいりたいと思いますので、ぜひともよろしくお願いたします。

○町長（齋藤文彦君） いろいろ草刈り等はいろいろ言われましたけれども、私も県の方にいろいろお願いするわけですがけれども、本当に5月の連休前にやってくれればいいなと思うわけですがけれども、なかなかやってくれないので、困っているところでございます。

それで、私も伊豆半島をずっと見て回っていますけれども、本当に県道とそのそばの草刈りというのが非常にお粗末で、これから本当に県に徹底的にいききたいなと思っております。

それで、私は、皆さん方にこれを機会にちょっとお話ししたいなと思うわけですがけれども、

いま、環境保全モデル地区指定ということで、18カ所あるわけですがけれども、これは各課が全部担当してやっている。18地区を掃除しているわけですがけれども、はじめは、これは地域の人と一緒に掃除をやっていたというような話は聞いています。だけど、途中から全部役場がやれというようなことで、役場でやっているわけですがけれども、18カ所。本当にこれを機会に皆さん方と一緒にやっていけるような体制を作っていきたいなと思っています。よろしくをお願いします。

○1番（藤井 要君）　そうですね。いま、町長、副町長から力強い町の美しい村づくりを聞きましたので、今度来た副町長は、何か光ものがあるなということで、名前も光さんですので、よろしく願いいたします。

次に、教育問題について伺います。幼稚園の答申が岩科ということで出たわけですがけれども、先ほど「どうして岩科に決まったか」というようなこともお伺いしました。

私は、その決まる課程において、今回町長が岩科にということで諮問したわけですがけれども、2年間くらいブランクというか、お話がなかったなかで、それは、津波関係がどこまでというのが決まったりしないということで、それも1点あります。そして、この2月28日ですか、第1回のお話があったと、そして、3月の中ごろになるんですかね、それから現地視察に行くと、そして、5月2日ですか、またお話し合いがあったと、そして、5月27日に答申が出たわけですね。そうしますと、28日は何をやったか、ちょっとわかりません。3月には現地視察、そうすると、3分の2くらいの方が新しいメンバーになっているんですよ。そして、そこでどういう話し合いができたのか。どんな質疑がなされたのか。それがちょっと、先ほども冒頭で言いましたけれども、先ほどの説明では、なんか県とか、そういう基準があつて、岩科ということでしたけれども、本当に3分の2、新メンバーのなかで、新しい議論がされたのか、もう前回の古い委員の方、5人とかいますよね。その中で決まっていたから、もう議論の余地はないよとか、そのようなことがあったのか。そういうことをちょっと内容的に伺いたいと思いますけれども、どうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　私は、委員会の方からも新メンバーにちゃんと今までの経緯を説明して、それで、書類も全部渡して、全員賛成だというように聞いているところでございます。

○教育委員会事務局長（石田正志君）　ご質問の件ですが、会議は、行政報告で申し上げました4回やりまして、2月28日に諮問ということで町長からきたわけです。それにつきましては、当然いろいろな資料、県の第4次被害想定津波浸水区域等の資料あるいは先ほど言いましたように、環境・・・、岩科と中川を比較したときのメリット、デメリット等は、我われ

の事務局サイドの考えですけれど、そういったものを提示しまして、ただ、メンバーの中では現地がわからないということで、3月17日に現地を見ましようということになっているわけです。

議員のご指摘のとおり、15名の委員でございますけれど、ほとんどの方がいわゆるあて職、各団体の代表となっているわけですし、ちょうど3月で任期が終わる方が多くて、15名の内10名、3分の2の方が替わったということでございます。

新しいメンバーの方に集まっていたのが、5月2日の会議でございますが、第1回、第2回の検討の中で、委員会の中では、ほぼ諮問の場所について、そちらの方向でいいんじゃないかという大多数の意見となっております。

それを、5月2日の新たな委員の方には当然今までの資料と経過報告を丁寧に事務局としてはしたつもりでございます。その中で、意見を各委員に求めたわけですけれど、特にそれについて反対とかというような意見はございませんでした。そんな中で採決という形になったわけですが、当然委員のメンバーが替わったわけですから、そういったいろいろな意見が出るかなとは思ったんですけれど、正直言って、出なかったわけですけれど、おそらく、委員の方々は、それぞれ各組織の代表で来ていただいているわけです。いわば、役員は替わったとはいえ、その代表、前任者からの継続性というものを考えていただいて、その5月2日の委員会としての結論に賛成をしていただいたものではないかというふうに考えております。

簡単ですが、以上でございます。

- 1番（藤井 要君） これはいろいろですね。この委員会だけじゃなくて、やっぱりそういうことはあり得るわけですよ。それは仕方がないと思っております。でも、こういう大事なものは途中で入れ替わることなく、例えば、建設委員会とか、ですから、幼稚園とか、保育園を造る話し合いのなかで、建設委員会とかを特別に作って、それが終わるまでは特別委員会みたいなもので審議する。ですから、4月の区長さんが替わったとか、そういうふうになってもできるような状態とか、そういうのを今度から検討してもらいたいなと思っております。

それから、人口減少とって、減少ばかりに目を向けるわけにはいきませんが、今は37くらいの何々委員会というのがいろいろあるみたいなんですけれども、そういうのも同じようなものは集約していくとか、前にも言いましたけれども、そういうのも必要じゃないかということで、そこは検討してもらいたいなと思っております。これは返答はいりませんが

も。

私は、持論で言うんですけれども、中川平野は岩科平野に比べて、3倍くらいの広さがあるよと、そして、動線的にも、下田との動線がある。なにか災害があったときも警察とか、そういうのが、消防署もそうですけれども、そういうライフラインもできてきているというようなこともありますし、そして、今、この総人口の54パーセントは道部と町内、桜田までなんですけれども、54パーセントの方がこの地区に住んでおります。中川は21パーセントです。岩科は13パーセント、三浦の方は12パーセント、じゃあ、30歳以下はどうかということになりますと、0歳から30歳までを調べますと、道部、町内、桜田までを合わせますと、59パーセントの方がここに住んでいるんですよね。中川は21パーセント、岩科は8パーセント、三浦の方が11パーセントなんですよ。

三浦の方は岩科に来た方が早いわけですからけれども、これを入れても20パーセントにいかないんですよ。30歳以下の方はね。

そうしますと、10年、20年と考えた場合に、ちょっと言葉が悪いですがけれども、生産人口といいますか、子どもができる、そういう人口が30歳・・・、35歳かもしれませんけれども、そういうのを考えた場合に、なかなか、今でも少ないところに、どんどん少なくなる、インフラ整備とかいろいろ出てくるわけですからけれども、集約していった方がいいのかなと思いますけれども、それはそれなりに、こういう委員会で出た結論に対しては重く受け止めておりますので、それに対して、どっちがいい、こっちがいいということではありませんけれども、そういう点を町長はやっぱり最初の時に、岩科がさびしくなるよとかというような・・・、それで幼稚園とかそういうことを持つていくことによって、やっぱり賑わいが出てくるとか、そういうことを言うておられた。それもうそではないと思うんですよ。

どこまで町長が、10年後とか、20年後を考えて、諮問したかはわかりませんが、ちょっとスピード感をといつも言っている。町長、ちょっと急ぎ過ぎた結論ではなかったのかなと私は思うものであります。そのところをちょっとだけ、次の質問もありますので、答えられれば、答えてもらいたいと思いますけれども。

○町長（齋藤文彦君） 今、藤井議員が言っている委員会の反省点とか、いろいろあると思いますけれども、それはいろいろこれからも考えていきたいなと考えているところでございます。

私は、いろいろ町の賑わいを考えて、このような答申をいただいて非常にありがたく思っているところでございます。

先ほど壇上で私は言いましたけれども、敢為邁往（かんいまいおう）と横綱が横綱審議会の前でこういうことをちょっと四文字熟語で言いますけれども、敢為邁往（かんいまいおう）というのは、目的に向かって、困難をものともせず、自ら思い切ってまっしぐらに進んでいくことということになっていますので、このように決まったら進んでいきたいなと思っているところでございます。

○1番（藤井 要君） この教育問題は、もう少しだけ時間をいただきまして、先ほど壇上でも言いましたけれども、某議員が聖和の関係・・・、今後も適切に運営できるという保障はないので、町としては、同意するつもりはないと答えておりますけれども、これはですね。町長、考えによっては、聖和保育園に運営できる保障はないということになると、町長、「自ら町がやるしかないじゃないですか」という考えも出るんですけれども、聖和保育園等からこういう議会だよりか何かを見て、なんかクレームがあったりとか、そのようなことはありましたか。それと、いま、私の「町でやるしかないじゃないか」という答えを少し、できればお願いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 私はそのことは言った記憶がないです。聖和さんの方で、非常に保育園に対しての意思が強いので、撤退意思のない社会福祉法人を排除することは不可能だとは言ったけれども、その藤井議員が言っている言葉は、私はちょっと発した覚えはないです。

○健康福祉課長（高木和彦君） その件につきましては、町長は、ちょっと急な話でしたので、ちょっと勘違いがありまして、実際にそのような答弁はしております。ただ、その前に、聖和保育園については、長い間保育を担ってきたということを十分評価したうえでの発言でございまして、こういったのは、今の状態でできないということではなくて、あくまで民間といいますか、福祉法人ではありますけれども、そういう団体でありますので、必ずしも将来にわたって、例えば、職員の確保ですとか、そういうことができないことが想定されるものですから、必ずしも聖和保育園さんで幼稚園、保育園両方できるという態勢はあっても、それが長い間継続できるかどうかわからないという意味で言ったこととございまして、ご理解ください。

○1番（藤井 要君） もう1点、ちょっと忘れましてけれども、先ほど聖和保育園さんの方が、いま耐震性がないと言われているんですよ。今の状態でいきますと、幼稚園さんの方は津波も安全、地震も安全、まあ、地震が起きて津波が来るわけですけども、そうした場合に、聖和保育園の建設、先ほど言いました7500万円もありますけれども、今回付きました

よね。そういう点を考えると、これは、聖和のご父兄がよく黙っていますよね。という考えになるわけですよ。聖和さんのせの字も出ないで、松崎町の安全なものから先にやるというのが、「ちょっとおかしいんじゃないか」と私は先ほど言いましたけれども、1園にした方がいいという論者ですけれども、町長が、頑として2園でいくということになれば、私は切り替えて、それだったら、聖和さんの方にも、あそこの怖いところでいつまでもやるんだと、聖和さんが先じゃないかということの道理もたつと思うんですけれども、7500万円の予算が付いた、その予算をどう消化していくのかも併せて回答をお願いします。

○町長（齋藤文彦君） 聖和保育園さんは本当に早くやりたいなと私は思っています。それで、聖和保育園さんの方と課長を交えて何回か話し合っています。安心こども基金の関係もありますので、県の方とも話しあっているような状況です。

ただ、中川、その周辺はちょっと警察の分庁舎のことがありまして、なかなか進まないというのが現状でございまして、それがある程度クリアになれば、進んでいくのかなというところがございます。

○健康福祉課長（高木和彦君） 藤井議員がおっしゃるとおり、やはり子どもが安全というのが最重要のことですので、担当課としましては、岩科の方に幼稚園をとという答申が出ましたので、中川の方に、中川小学校の敷地内に聖和ということを考えています。ただ、いま建物が古い校舎なんかがありますし、中川幼稚園が今度は統合して岩科にいきますと、ちょっと敷地の関係で制約を受けるところもあります。これらにつきまして、また私どもは場所の平面図ですとか、航空写真を手元に用意しておりますので、今後皆さんの意見をお伺いしながら、どのように整備をしたらいいか検討していきたいと思っておりますので、またご意見の方を頂戴いたしたいと思っております。

○1番（藤井 要君） スピード感をもってしっかりとやってもらいたいと思っております。

そして、5月22日の朝日新聞でしたけれども、市立幼稚園3つの選択肢ということで、認定こども園、新制度でやるときに、今までどおりとか、いつも私が言っている一つの建物の中に、右が幼稚園、左が保育園でもいいじゃないかと、廊下じゃないですけれども、真ん中に給食のようなものを食べるというようなことで、そういうことも書いてありました。時間の都合でできませんけれども、これから、藤池教育長を中心にしっかりと納得できる説明ができるように、よろしくお願ひしたいなと思っております。

あと、最後の今後の課題ということで、少子化に向けた近隣市町との連携ということで、お願ひしたいんですけれども、6月4日の新聞を見ますと、伊豆新聞さんになりますけれど

も・・。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。藤井君、延長しますか。

○1番（藤井 要君） 延長してください。

○議長（稲葉昭宏君） 5分延長を許可します。

○1番（藤井 要君） 伊豆新聞さんを書いてあったことですが、火葬場の関係、これが、過疎債でもいいというようなことで、でかでかと載っていましたよね。これは、ある意味、私は西伊豆町長からのメッセージではなかろうかと思うんですよ。一緒にやりましょうと、そう私は受け取ったんですよね。そういうことを考えた場合に、わが町も西伊豆に・・、町長、先ほど共同調理場とかありましたから、そういうのを、今度は伊豆新聞に、西伊豆町さん、一緒にやりましょうというメッセージを一つ、できませんか。

○町長（齋藤文彦君） 西伊豆町長とは、西豆自治会でもいろいろ話し合っていますけれども、経済地盤は一緒だと、広域でやれることはやっていこうということで話し合っていますので、新聞紙上うんぬんの話じゃなくて、西伊豆町とは連携しながらやっていきたいなと思っていますところでございます。

○1番（藤井 要君） 先ほど言いましたように、斎場の関係が出ましたから、ここで一発伊豆新聞にやりましょうよと、西伊豆町さん、やりましょうよと、そのくらいやってくださいよ。そして、伊豆新聞の一面を飾りましょうよ。できませんか。

○町長（齋藤文彦君） それは、いろいろ町長と話し合っていますので、それなりに進んでいると思っていますのでございます。

○1番（藤井 要君） じゃあ、町長、そこはよろしく願いいたしますよ。

そして、先ほどいろいろ教育の関係、学童の関係も言いましたし、どんどん、どんどんと今、国の方でも教育問題・・、例えば、教育委員会の統合とか、一緒にやろうとか、そういう問題も出ていますし、また小中一貫教育なんていうのも出てきていますよね。そういう面で、いろいろやることはあると思うんですよ。3月の時にも、私は言いましたけれども、今度、西伊豆は教育長が県から来ました。うちの方はグリーンツーリズムとか、いろいろ詳しい副町長が来ていますので、ちょうどいい機会じゃなかろうかと、なかには、今度来た副町長は2年間かな、4年間かなと心配している人もいるんですよね。一応2年間だというようなことも伺っているんですけれども、いなくなる前にがっちりとスクラムを西伊豆町と組んで、そういういろいろの面で働きかけてもらいたいなと私は思っています。ですから、これもよろしく願いしたいと思います。

それで、先ほどは共同調理場のこともありましたけれども、斎場もそうなんですけれども、やっぱり私は、この前言いましたように、一番問題になるのは、あの外部だと思うんですよ。

例えば、合併はしなくても、共同でできるものは一つでやっていった方が・・・、二つでやった方がいいんですけれども、あそこを通ると年中工事して、片側通行でボロボロ落ちるのをいま工事しているわけなんですけれども、何かになったときに、給食は、先ほど2時間以内ということがありましたけれども、遠回りして食べる。共同でやった場合ですけれども。そういうのを分断される。例えば、学校も中学を・・・、例えば、これは私の言いたい放題で言っているわけなんですけれども、築地あたりとかを、じゃあ、松崎にという・・・、もしそういうふうになった場合に、あそこが崩れて、また分断される。そういうことのないようにするには、外部がなんかいま一番ネックになるのかなと私は思うんですよ。ですから、そういう点を、先ほど4人でスクラムを組んで、陳情して、防災の関係もありますけれども、そういう強いまちづくりをひとつお願いしたいなと思うんですけれども、そこら辺が回答できましたら、お願いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど申したとおり、西伊豆町長とかいろんなことを、表面には言えないんですけれど、いろいろ話し合っていて、やっていきたいと思っています。本当にこれから・・・、お金を出すところは本当に締めていかなければ、これから本当に両町ともやっていけませんので、両町でやっていけるところはなるだけやっていこうと話し合っているところでございます。

○1番（藤井 要君） あと1分になりましたので、これで私の質問の方は終わりますけれども、先ほども冒頭で言いましたけれども、本気度をもって、町長、やってくださいよ。腹に力を入れて、そして、松崎と西伊豆町を消滅しない町にするために一生懸命、それに私たちも議員として町長を支えるべきところは支えますので、本当に、町長、正念場という言葉がこの前の時に、どう答えているか、わかりませんが、子どもの数も25年度は30人しか生まれなかったんですよ。私は今年に注目しています。これが30人を割って、25人くらいになったら、本当にこれはもう危機的状況だなと思いますので、そこら辺はしっかりと行政がやってもらいたいなと思います。

これにて私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で藤井要君の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩いたします。

(午前 1 1 時 3 5 分)
